

## 2025年度定時総会・懇談会を開催



航空貨物運送協会（JAFANA）は、6月10日、東京・港区のグランドプリンスホテル高輪で、2025年度定時総会を開催いたしました。総会には、正会員124社（うち委任状提出社65社）が出席しました。2024年度事業報告・収支決算他が承認され、2025年度事業計画・収支予算等が報告されました。今回の総会において、元会長で副会長（総合部会長）の鳥居伸年理事、前会長で副会長（国際部会長）の岡本宏行理事、多

田晴好理事が退任し、新たに、山中哲也氏（近鉄エクスプレス代表取締役社長）、原秀則氏（郵船ロジスティクス代表取締役社長）、岡田浩治氏（サンキュウエアロジスティクス代表取締役社長）、鈴木健次郎氏（西濃運輸執行役員国際部部長）、名取一茂氏（ロジスティードエクスプレス代表取締役社長）、村上正弘氏（JAFANA事務局長）が理事に就任しました。

総会後の理事会において、副会長

（総合部会長）に山中哲也氏が、副会長（国際部会長）に原秀則氏が、常務理事に村上正弘氏が、それぞれ選任されました。

総会後の懇談会では、国土交通省大臣官房審議官（物流・自動車）木村大様と財務省関税局長高村康夫様よりご挨拶いただき、日本航空執行役員貨物郵便本部長木藤祐一郎様の音頭で乾杯が行われました（10頁に写真掲載）。

# 協会役員

理事 20 名 / 監事 2 名 (敬称略) (●は新任)

(2025 年 7 月 1 日現在)

協会役職	氏名	会社名・役職
会長 (代表理事)	杉山 千尋	日本通運 (株) 代表取締役副社長
副会長 (代表理事・総合部会長)	● 山中 哲也	(株) 近鉄エクスプレス 代表取締役社長
副会長 (国際部会長)	● 原 秀則	郵船ロジスティクス (株) 代表取締役社長
副会長 (国内部会長)	恵谷 洋	ヤマト運輸 (株) 取締役副社長執行役員
副会長 (通関部会長)	谷村 和宏	(株) 阪急阪神エクスプレス 代表取締役社長
専務理事	山本 博之	(一社) 航空貨物運送協会
常務理事 事務局長	● 村上 正弘	(一社) 航空貨物運送協会
理事	原 学	インターナショナルエクスプレス (株) 代表取締役社長
理事	筒井 達夫	NX クーリエサービス (株) 代表取締役社長
理事	杉口 広	(株) OCS 代表取締役社長
理事	● 岡田 浩治	サンキュウ エア ロジスティクス (株) 代表取締役社長
理事	桜田 治	商船三井ロジスティクス (株) 代表取締役社長
理事	● 鈴石健次郎	西濃運輸 (株) 執行役員国際部部長
理事	藤松 正樹	セイノースーパーエクスプレス (株) 常務執行役員
理事	宇高 圭一	西日本鉄道 (株) 専務執行役員
理事	珍田 昌一	(株) 日新 常務執行役員
理事	中谷 智	(株) ベガスグローバルエクスプレス 代表取締役社長
理事	鶴澤 清雅	名鉄ゴールドデン航空 (株) 代表取締役社長
理事	● 名取 一茂	ロジスティードエクスプレス (株) 代表取締役社長
理事	小島 朋子	(株) YDH・ジャパン 代表取締役社長
監事	佐々木基泰	ケイヒン航空 (株) 代表取締役社長
監事	堤 廣	国際空輸 (株) 代表取締役社長

## 国際宅配便利用時 (越境 EC 活用時) の注意点について

国際宅配便業務委員会では、荷主 (主に越境 EC 事業者) の皆様への啓発活動として、海外への輸送状況について 2024 年度検証と検討を行ってまいりました。

輸出入規制品目や航空機への搭載制限のあるものが、通常発送され、輸入国の税関でストップして輸入できず、廃棄処分や返送処理となる事例が発生したり、罰則が課される場合もあることを踏まえ、越境 EC 事業者に送付品目によ

ては十分な注意が必要であることを認識いただくためのパンフレット (下掲) を作成し、配布するとともに、JAJA ホームページトピックスへ掲載いたしました ([http://www.jafa.or.jp/\\_assets/attach/attach638.pdf?1752827425](http://www.jafa.or.jp/_assets/attach/attach638.pdf?1752827425))。

なお、今後の交渉次第ですが、E コマース業者を対象としてサイト内で同様の広報活動を計画中です。

(国際宅配便業務委員会)

《越境EC貨物》 海外へ送るその荷物、ちょっと待って!

**身近な品物でも 海外に送る際にはご注意ください**  
航空機への搭載規制、輸出入の規制がかかる場合があります

- 食品・口に入れるもの
  - 各国輸入規制対象の可能性
  - 農畜産物、肉成分・肉エキス
  - 各国検疫対象の可能性
- 揮発性成分入り化粧品・スプレー類
  - 航空危険品の可能性
  - 直接肌につけるもの
  - 各国輸入規制を要確認
  - アロエ、パニラ成分
  - ワシントン条約に該当の可能性
- ゲーム機、家庭用電化製品
  - リチウム電池が航空危険品の可能性
- その他
  - モデルガン
  - ・ドローン
  - ・包丁
  - ・電子タバコ
  - ・ブランドバッグ などご注意ください

詳しくは各輸送会社へお問い合わせください

# IATA 認定資格試験について

2025 年 5 月以降実施しました IATA 認定資格試験（基礎コース・危険物コース）の結果を報告します。



## IATA Cargo Introductory Course (通称 IATA ディプロマ基礎)

2025 年 5 月	受験者数	合格者 (pass)	合格率	高得点者 (distinction)	高得点での合格者率	欠席 (No show)	不合格者 (failed)
基礎コース	11	5	45.5%	0	0.0%	6	0

## CBTA 危険物取扱資格取得講習会

2025 年 4 月講習会	受験者数	合格者 (pass)	合格率	高得点者 (Distinction)	高得点での合格者率	不合格者 (failed)
7.3 コース イニシャル	11	11	100.0%	6	54.5%	0
7.3 コース リカレント	1	1	100.0%	1	100.0%	0
合計	12	12	100.0%	7	58.3%	0

2025 年 5 月講習会	受験者数	合格者 (pass)	合格率	高得点者 (distinction)	高得点での合格者率	不合格者 (failed)
7.1 コース	11	10	90.9%	10	100.0%	1
7.1 コース リカレント	3	3	100.0%	2	66.7%	0
7.3 コース イニシャル	11	10	90.9%	8	80.0%	1
7.3 コース リカレント	16	16	100.0%	13	81.3%	0
7.2 コース	3	3	100.0%	2	66.7%	0
合計	44	42	95.5%	35	83.3%	2

危険物資格取得講習会につきましては、今後も奇数月と 7.3 イニシャルコースでは東京地区で偶数月にも開催しますので、是非多くの会員様従業員の方にご参加いただき、航空危険物取扱いの資格取得を目指していただきますよう、よろしくお願いいたします。

また、航空危険物を取扱う荷主様にも是非ご紹介いただき、航空危険物取扱いの資格取得を推奨いたしますよう、合わせてお願い申し上げます。

資格取得に関する詳細につきましては、当協会 HP「一般社団法人航空貨物運送協会」-ディプロマ試験案内」をご覧ください。 (国際教育委員会)

(国際教育委員会)

## Airport Cargo Eye

熊本空港における国際航空貨物の  
取り扱い強化に向けて

熊本国際空港株式会社  
執行役員経営企画本部長

友清 佳樹

平素より、阿蘇くまもと空港の運営にご協力いただき、誠にありがとうございます。

当空港では国際貨物の取り扱い強化に向けて、今年5月、「国際航空貨物上屋」の供用を開始しました。制限区域内に上屋を整えたことで、貨物の通関手続きや搭降載がこれまで以上に円滑になりました。本欄を通じて、同上屋建設の経緯や概要、当空港を取り巻く環境についてお伝えしたいと思います。

## ① 熊本県と連携し建設へ

阿蘇くまもと空港では、熊本地震で被災した旅客ターミナルビルの建て替えを含めた「空港コンセッション」が導入され、2020年4月より私たち「熊本国際空港」が運営を担っています。

空港は人や物がリアルに行き交う玄関口であると同時に、災害時には医療搬送などの拠点となる重要なインフラであり、国や熊本県、周辺自治体との連携は重要であると日頃から意識しています。特に、空港周辺の将来像を「新大空港構想」として掲げている熊本県とは密に情報共有や共同施策の展開を図っており、この一環として同上屋の整備が具体的に検討されることになりました。

## ② ニーズの高まりが後押し

上屋整備の背景には、空港周辺にTSMC(台湾積体回路製造)をはじめとした半導体関連産業の進出が相次ぐ中、国際

航空貨物の取り扱いに関し、さまざまなご要望やお問い合わせをいただいている状況がありました。また社会的に、環境問題への配慮や物流業界が抱える課題への対応も求められていました。

こうしたニーズがさらに高まっていくことは確実で、当社としてスピード感を持って保税上屋を整備することが必要だと判断。2024年12月に着工し、事業費約2億7,900万円のうち、約5,000万円に熊本県の補助金を活用させていただきました。

## ③ 制限区域内に独立した貨物上屋

こうして2025年3月に竣工した上屋は鉄骨造平屋建てで、建築面積約1,500平方メートル。上屋全体と軒先の一部が保税蔵置場となっています。最大の特徴は、建物が制限区域内に独立してあることで、これは国内で初めての事例です。限られた空港敷地の中、駐機場に隣接する場所に整備できたことで、貨物の円滑な通関手続きや搭降載が実現しました。トラックの輸送距離が短くなるので、リードタイムの短縮にもつながると考えています。

上屋の運営はDSV(日本法人:ディエスヴィ・エアシー)へ委託し、世界最大のフォワーダーとしての実績から最高水準のサービスを提供いただけることに期待しています。同社によると、運営はフォワーディング事業とは別部門の「共同上屋事業部」が担うということで、当空港を離発着する全ての航空会社、フォワーダー、通関事業者の貨物を公平に取り扱っていただきます。

阿蘇くまもと空港では、2023年度まで、国際航空貨物の取扱いはほとんどありませんでしたが、24年度には県や航空会社と協力してイチゴやかんきつ、焼酎、牛肉を国際線定期便で輸出するトライアル事業に取り組んできました。熊本は全国屈指の農業県なので、農畜産物の輸出需要も高いとみえています。

九州の中心に位置する空港としての地理的優位性を生かし、さらなる発展を目指していく上で、国際航空貨物の取扱量増加は大きな鍵となってきます。今後も当空港としてできる最大限の取り組みで物流を後押しし、地域経済に貢献していきたいと考えています。



貨物上屋外観



貨物上屋内部



貨物上屋配置図



開所式

# 2025年度春期国際航空貨物基礎講習会を開催

2025年5月29・30日の間、国際教育委員会主催の春期国際航空貨物基礎講習会を開催いたしました。

本年も、春（5月）と秋（10月）の2回に分け開催し、5月29日は、会場参加40名、オンライン参加203名。5月30日は、会場参加55名、オンライン参加99名の合計397名の方に受講いただきました。（参考：2024年春期講習会404名参加）

講義は、下記7つのテーマに沿って、JAF A 各委員会・JAF A 講師が担当し、航空貨物取扱いの基礎、通関業務および航空危険物取扱いの基礎について学んでいただきました。

終了後には、参加された皆様にアンケートをお願いし、このアンケート結果を参考に、秋－2025年10月28・29日に開催します国際基礎講習会でより充実した内容にて開催できるように準備してまいります。

JAF A 会員様の2025年度新入社員を対象としますが、若手社員の参加も歓迎いたします。また、春期講習会にご参加いただけなかった方もご参加いただけます。

秋の講習会の募集案内は、8月下旬ごろを予定しております。（国際教育委員会）



国際航空貨物基礎講習会の講義メニューおよび担当講師

講習会講義メニュー	担当講師
成田空港の紹介、航空貨物の現状(30分)	事務局
輸出入航空貨物業務 Part I (60分)	国際教育委員会
輸出入航空貨物実務 Part II (60分)	国際教育委員会
航空貨物概論(60分)	ANA Cargo 様
国際宅配便について－越境 EC (30分)	国際宅配便業務委員会
通関業務について／基礎編(60分)	通関業務委員会
危険物取扱いについて／基礎編(60分)	JAF A 危険物インストラクター

# 2025年度 国内航空貨物基礎講習会を開催

国内航空貨物基礎講習会を、2025年4月24・25日の2日間にわたりJAF A セミナールームでの集合形式およびWEBの併用にて開催いたしました（一部後日動画による受講あり）。昨年に引き続きWEBも併用して開催し、各社の新入社員を中心に全国各地から延べ126名の皆様にご参加いただきました。

会場参加も126名中34名と、コロナ以降はWEB参加が多数でしたが、会場参加数も回復しており、会場で講師の生の講義を受講いただく受講者も増えております。

今回の講義内容は、1日目に国内航空貨物業界の動向、国内航空貨物の流れ（動画視聴）、利用航空運送事業概要、約款の解説、運賃計算実務について、2日目には国内航空貨物の危険物輸送、損害保険業務、航空保安対策について、2日

間計6項目について講義を行いました。

一部では外部講師をお招きし、国内航空貨物業界の動向については日本航空様、損害保険業務については損保ジャパン（株）様からそれぞれ専門的な立場からわかりやすく解説をしていただきました。

また、「国内航空貨物の危険物輸送」では、JAF A の危険物インストラクターに登壇いただき、危険物規則の解説の他、近年取り扱いが増えているリチウム電池やドライアイスの取扱いについて実務に即した内容で講義をいただきました。

講習後、受講者に記載いただいたアンケート結果は「満足」「やや満足」が大半となっており、本講習会が受講者の一定のお役に立てたものと考えております。

また、受講者アンケートでは本講習会に対する受講者からのご意見も多数いただいております。今後の講習がより受講者の方にとって有意義なものとなるように生かしていきたいと考えております。

当委員会では、今後も国内航空貨物の発展に向けて国内航空貨物に従事する皆様への様々な講習会等を企画してまいります。

（国内業務・教育委員会）

**国内貨物・利用航空運送業務の概要**

---

2025年度 国内航空貨物基礎講習会



一般社団法人 航空貨物運送協会

**目次**

1. 国内航空貨物輸送
2. 国内航空貨物業界の概況
3. 航空貨物取扱代理店業務(航空運送代理店業)
4. 航空貨物混載業務
5. 航空貨物混載業務の法律上の位置づけ
6. 国内航空宅配便事業
7. 国内利用航空運送約款

## 記者懇談会開催

4月18日、東京會館 LEVEL XXI (大手町)において業界専門紙記者との2025年の懇談会が開催され、専門紙9社から計10名の記者に出席いただきました。また、JAFA側からは会長、副会長、一部委員会委員長および事務局・広報委員会委員が出席し、各分会の2025年度の活動計画について部会長から発表がなされた後、記者の皆様と質疑応答を行いました。出席した各記者からは、米国の関税政策を踏まえた荷動きの見直しやKS/RA制度の見直しに向けた対

応についての質問があり、会長、専務理事より回答いたしました。

懇談会に続いて開催された懇親会も終始和やかな雰囲気の中で進行

し、記者の方々との対話を通じて、相互理解と関係性の深化を図る貴重な機会となりました。

(広報委員会)



## 通関業務・情報合同委員会主催セミナー 「EPA原産地規則の概要」

我が国では、昨年11月の時点で、50か国との間で21の経済連携協定を署名・発行済みであり、全貿易額に占めるEPA/FTA署名・発行済国との貿易額の割合は約8割に及んでおり、さらに、UAE、トルコ、バングラデシュ、GCC等とのEPA交渉も行われています。通関業務・情報合同委員会では、効果的かつ適正なEPAの活用のため、昨年6月に、財務省・税関EPA原産地センターにお願いし、EPA原産地規則についてのセミナーを開催し、218名の皆様に受講いただきました。本年は、昨年のセミナー以降に運用や様式が変更になった部分、あるいはその後新たに発生した非違事例等も加え、改めてEPA原産地規則について解説いただくこととし、6月12日(木)に、財務省・税関EPA原産地センターより武田原産地調査官、森江上席調査官、坂田調査官、齊藤調査官をお招きし、「EPA原産地規則の概要」セミナーを開催いたしました。



セミナールーム14名、オンライン参加215名、合計229名の方々に参加をいただきました。

(通関業務・情報合同委員会)

## JAF A セミナー 「物流革新に向けた取組について」

2021年3月に閣議決定された「総合物流施策大綱(2021年度-2025年度)」は本年度が計画期間の最終年度となっており、4月の関係閣僚会議の指示を受け、5月初めに次期「総合物流施策大綱」の策定に向けた第1回の検討会が開催されました。政策委員会では、国土交通省物流・自動車局物流政策課より総括補佐林田雄介様をお招きし、6月20日(金)、「物流革新に向け

た取組について」と題し、2024年問題の現状や、総合物流施策大綱の策定などを含む、物流政策の最新動向・物流政策の全体像について解説いただきました。

セミナールーム9名、オンライン参加94名、合計103名の方々に参加をいただきました。

(政策委員会)

# 第 51 回 FAPAA 総会 参加報告

2025年6月1日から4日にかけて、フィリピン・マニラにて第51回 FAPAA (アジア・太平洋航空貨物業者連盟) 総会が開催されました。JAFA からは国際交流委員会より委員長および委員の2名が出席し、アジア太平洋地域の航空貨物業界関係者との意見交換を行いました。今回の総会は、PMTLA (Philippine Multimodal Transport and Logistics Association) がホストを務め、現地の産業構造や空港インフラ整備の進展についても紹介されました。

総会初日には、フィリピン航空の貨物営業部門から、国内外における航空貨物の需要拡大と課題について報告がありました。特に E コマースの拡大や医薬品などの Time Critical Cargo の増加により、国内空輸に対する期待が高まっていることが共有されました。また、政府と民間の連携による FTA (自由貿易協定) の活用促進策として、FTA 情報ポータルや原産地管理システム (OMS) の導入状況についても解説があり、中小輸出事業者がより容易に制度を活用できる仕組みづくりが進められていることが分かりました。

今回は「貿易・物流分野における AI の活用」に関する講演も行われました。フィリピンにおいては FTA の存在を知っているにもかかわらず、多くの輸出者が制度を実際に活用できていないという課題があり、その要因として複雑な原産地規則や煩雑な手続きが挙げられています。こうした状況を改善すべく、フィリピン政府と民間が連携して FTA 情報ポータルを構築中であり、輸出者が自社製品に適用可能な FTA を簡便に検索できる機能が搭載されています。さらに、原産地管理システム (OMS) には HS コードの自動分類機能や適格性評価支援ツール、電子的な原産地証明書 (e-CO) の申請機能が盛り込まれており、実務面での負担軽減に寄与しているとのことでした。

続く講演では、今 E-Commerce の活況の反動として「デミ



プレゼンテーション中の様子

ニミス制度」に関する議論が展開され、低額貨物に対する関税免除がもたらす利点と同時に、税収減や制度の濫用といった課題も指摘されました。越境 EC や小口配送が主流となる中、国際物流の公平性と効率性を両立させる制度設計の必要性が浮き彫りとなった背景の説明がありました。

IATA (国際航空運送協会) からは、現下の業界の重点課題として「デジタル化」「安全性」「セキュリティ」「サステナビリティ」の4点が強調されました。また、航空機の老朽化による課題、次世代型貨物施設構想、PLACI (事前貨物情報制度) の対応状況、そして航空貨物従事者の育成と標準化の推進についても包括的な報告がなされました。

また、IATA 貨物代理店制度や CASS (貨物決済システム) に関する議題に加え、DIP 保険制度の廃止後の対応や銀行保証の見直しなど、より実務に即した議論が活発に行われました。

JAFA は今総会をもって新たに教育とメンバーシップの分野を担当することが決定し、今後の活動が期待されます。

次回の年次総会は、2026年5月にネパール・カトマンズでの開催が予定されています。

(国際交流委員会)



## 委員会等活動報告

4月	4日	国内業務・教育委員会	国内航空貨物危険物セミナーのアンケート結果等確認、基礎講習会準備状況確認等
	10日	空港対策委員会	2025年度活動内容について、成田輸入TDMSのその後の状況について、他
	14～16日	国際教育委員会	CBTA 7.3イニシャル/リカレントコース
	22日	政策委員会	次回Jafaセミナーのテーマの確定、今期セミナーのテーマについての意見交換等
	23日	保安委員会	航空局よりの安全確認書類統一に係る照会、規程改正への運用面での対応確認等
	24～25日	国内業務・教育委員会	国内航空貨物基礎講習会開催
5月	9日	通関業務・情報合同委員会	通関セミナー、中小企業振興公社セミナー、通関業連合会との意見交換等
	13～15日	国際教育委員会	CBTA 7.1イニシャル/リカレントコース
	16日	国際交流委員会	IATA WCS& CBTA Conference (Dubai) 出張報告 等
	16日	保安委員会	規程改正に係る確認事項についての航空局との打合せ
	19～21日	国際教育委員会	CBTA 7.3イニシャルコース
	22日	国際教育委員会	委員長の選定、国際基礎講習会対応について
	22日	保安委員会	第60回(東京)・第61回(福岡)航空保安教育訓練 実施
	23日	国際教育委員会	CBTA 7.2コースオンライン開催
	23日	国際宅配便業務委員会	EC事業者に対する啓発活動について
	26～28日	国際教育委員会	CBTA 7.3リカレントコース(放射線取扱含む)
	28日	広報委員会	記者懇談会・懇親会のレビュー、定時総会記者会見、Jafaニュース135号について他
29～30日	国際教育委員会	春期国際基礎講習会	
6月	3日	保安委員会	航空保安対策の見直しに関するQ&Aについての航空局との協議進捗状況、他
	5日	国際業務委員会	ONE RECORD対応について
	6日	Jafa-BIAC共同研究会	航空危険物ベーシックコース、DGパンフレット、成田空港施設見学会 等
	12日	通関業務・情報合同委員会	通関セミナー「EPA原産地規則の概要」開催
	16～18日	国際教育委員会	CBTA 7.3 イニシャル/リカレントコース
	17日	国内業務・教育委員会	国内航空貨物基礎講習会レビュー、アンケート結果確認、空港施設見学設定検討等
	20日	政策委員会	Jafaセミナー「物流革新に向けた取組について」
	20日	空港対策委員会	成田輸入TDMS運用状況、その他
	23日	国際教育委員会	春期国際基礎講習会振り返り、秋期国際基礎講習会対応について
27日	空港対策委員会	JALターミナル・IACTに対する輸入TDMSの運用状況調査	

# あなたの 3 コードは？

～ JAF A 活動を支える皆様に、お仕事、経歴、趣味、ペット、故郷の自慢話、お勧めグルメ、これからの夢、得意のレア語学、今ハマっていること、推しの人、、、自由に、3点ほど語っていただきます。～



**理事**  
**(名鉄ゴールデン株式会社)**  
**鵜澤 清雅**

3 コードとして、「経歴」「仕事」「趣味」をご紹介します。

「経歴」：大学を卒業後、1985年(昭和60年)4月に名鉄運輸株式会社(現在の名鉄NX運輸株式会社)に入社し、航空事業部に配属されました。翌年、航空事業部が名鉄ゴールデン航空に譲渡されたことで転籍し、2019年5月まで34年間務めました。その後、名鉄運輸グループである株式会社

トーハイ(区域事業主体)に移籍し、2022年5月に再び名鉄ゴールデン航空に戻りました。

「仕事」：入社以来、国内航空貨物の営業一筋でキャリアを重ねてまいりました。最初に配属されたのは東京航空支店(台東区浅草)で、ドライバーとして集配業務を2年ほど経験しながら、予備校の教材や模擬試験などの全国配送を担当しておりました。この時出会ったお客様には、社会人として、また物流のプロとして徹底的に鍛えていただき、今の私があるのはそのおかげだと深く感謝しております。

「趣味」：学生時代はアルペンスキーに没頭しておりました。1972年の札幌冬季オリンピックのダウンヒル競技(滑降)を9歳の時にテレビ観戦し、「自分もやってみよう」と思ったのがきっかけです。学生時代は12月～3月までほとんどスキー場で過ごし、合宿と各地での試合を転戦していました。特に思い出深いのは、野沢温泉ダウンヒル3連戦です。時速100kmを超えるスピードと一歩間違えれば大怪我をする



という恐怖心との闘いであり、3試合のトータル順位で争われます。第1・2戦は好成績を残せたものの、第3戦ではスキーワックスの選択を誤り、スタート直後からスキーが全く滑らず惨敗。非常に悔しい思いをしました。最近ではスキーから遠ざかっていましたが、学生時代の後輩からシニアレースに誘われ、来シーズンは年甲斐もなく挑戦してみようかと考えています。最後に今後も JAF A メンバーの一人として微力ながら活動してまいりますので引き続きよろしくお願いたします。



**政策委員会委員長 兼**  
**国際業務委員会副委員長**  
**(郵船ロジスティクス株式会社)**  
**向田 充久**

これまでの勤務地3か所での、仕事と食にまつわる「経歴」を、私の3コードとしてご紹介させていただきます

**(1) 箱崎(水天宮)：**

郵船航空サービスに入社後、情報システム部に配属となり、日本橋箱崎町の本社勤務となりました。途中、営業店の勤務時期もありましたが、通算約14年、在籍しました。

当時の箱崎といえば、水天宮と TCAT くらい。昼食は TCAT で、仕事帰りは人形町駅・茅場町駅界隈の居酒屋に立ち寄り日々でした。今でも老舗の料理店や銘菓店を見ると、当時のことを懐かしく思い出しま

すが、ロイヤルパークホテル、水天宮前駅、IBM 箱崎ビルが開業し、護岸整備された隅田川沿いの遊歩道はロケの撮影ポイントになり、大きく街並みが変わりました。

**(2) 成田：**

次に、混載部署に異動し、成田空港南部貨物地区の事務所勤務となりました。航空会社の予約業務担当後、混載書類の作成・上屋搬入等の業務対応をしました。

単身赴任はせず、都内の自宅から往復約5時間の通勤。空港アクセス線の開業で多少楽になりましたが、過酷な遠距離通勤の日々。成田駅周辺の飲み会は22時過ぎが終電だったり、事務所での歓迎会の際は事前に成田近郊まで買い出しに行く必要がある等、何かと「遠い」成田でした。

それでも、参道沿いの美味しい飲食店、空港周辺のホテルバイキング、事務所周辺でもお気に入りの店を発掘し、慣れれば居心地のよいところでした。

**(3) 浜松町と茅場町：**

2016年から約6年半、CCSJ に出向しました。当時、CCSJ は浜松町にあり、航空会社とフォワーダー社からの出向者で、毎日どこのお店に行くのかの相談。飲食店が多数ひしめき合う環境は、仕出し弁当の



「CCSJ OB懇親会」(筆者左端)

成田から劇的に変化し、未だコロナ禍前、芝商店街や浜松町駅近辺での連日昼夜の飲食で、人生で一番太った時期でした。(写真は、2025年5月、当時の出向者との懇親会)

その後、航空事業部へ復帰し、現在、YLK の JAF A 担当として、副会長の補佐役、JAF A の政策委員会委員長、国際業務委員会副委員長、広報、空港対策の各委員、社内では電子化推進の役割を担って現在に至ります。CCSJ 出向時も、今も、箱崎や成田での実務経験と知識が、非常に役立っていますが、今となっては再び、茅場町の JAF A 事務所を訪問する機会を得られたことには、何かの縁を感じます。

最後に、食の方も、コロナ禍を経て、不摂生な生活環境を改善し、現在では健康に気をつけるようになったこと、申し添えさせていただきます。

# 2025年度 懇談会



財務省関税局長  
高村 康夫様



国土交通省大臣官房審議官  
木村 大様



日本航空執行役員貨物郵便本部長 木藤 祐一郎様



杉山会長



恵谷副会長

